



Bangkok Representative Office

## バンコク駐在員報告



# タイにおけるSDGsへの取り組み

### はじめに

SDGsは、2015年の国連サミットで採択された国際社会が取り組むべき「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」で、2030年までの中期的な世界全体の共通目標です。

いま世界は、貧困や飢餓、人種問題やジェンダーといった様々な課題に直面しています。

そのような課題を解決するための17の目標とその下にあるより細かい169のターゲットで構成されており、国連加盟193か国すべてが持続可能な発展に向けた取り組みを進めています。(図1) 日本でも、企業や自治体、大学などでSDGs達成に向けた取り組みが始まっています。ASEANにおいても、政府が成長戦略にSDGsの取り組みを織り込んだり、官民連携の支援を行ったり

と、動きが活発になってきています。本稿では、ASEANをリードするタイにおけるSDGsの普及状況や取り組みの概要を紹介いたします。

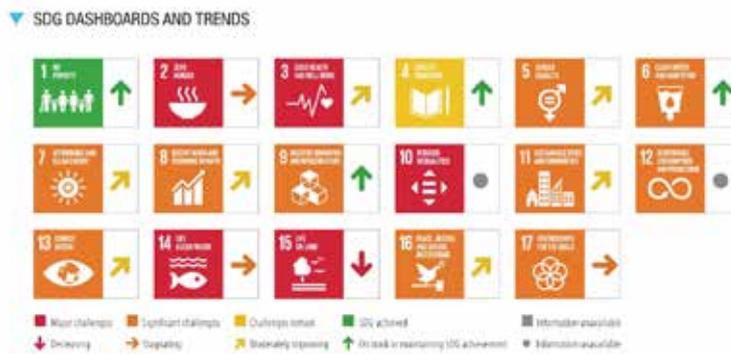
### 政府施策

2021年1月、タイ政府は経済成長と環境対策を同時に進めるBCG（バイオ・循環型・グリーン）経済を2021年～2026年の国家目標として取り組む方針を発表しました（2021-2026BCG Strategic Plan）。これは、国民（特に農業セクター従事者）の所得創出を狙うものです。

また、2021年8月、「国家エネルギー計画枠組み」が採択され、その中に、今後50年程度でクリーンエネルギーへの移行とカーボンニュートラル達成を目指す政策方針が盛り込まれました。具体的には、再生エネルギー発電比率を50%以上にする、デジタル化や電動化によるエネルギー産業を再構築する、といった内容です。

各国のSDGsの達成度合いを調査し発表している「持続可能

■ 図1 2021年 タイのSDGsの17の目標における進捗状況



(出所) SDG MOVE ホームページ



■ 図2 SDGs達成度評価

順位	国	スコア	順位	国	スコア
1	フィンランド	85.9	65	マレーシア	70.9
2	スウェーデン	85.6	76	シンガポール	69.9
3	デンマーク	84.9	84	ブルネイ	68.3
4	ドイツ	82.5	87	スリランカ	68.1
5	ベルギー	82.2	96	ネパール	66.5
18	日本	79.8	97	インドネシア	66.3
28	韓国	78.6	101	ミャンマー	64.9
43	タイ	74.2	102	カンボジア	64.5
51	ベトナム	72.8	103	フィリピン	64.5
57	中国	72.1	109	バングラデシュ	63.5
-	-	-	120	インド	60.1

(出所) Sustainable Development Report 2021

■ 図3 S&Pの「サステナビリティ・リーダー」に選出されたタイ企業

ランク	企業	分野	ランク	企業	分野
ゴールド (全社)	タイビバレッジ	飲料	シルバー (一部抜粋)	カシコン銀行	銀行
	PTTグローバル・ケミカル	化学		サイアム商業銀行	
	バンブー	石炭		バンコク銀行	
	サイアムセメント	建材	CPオール	小売	
	タイユニオン	食品	マイナー・インターナショナル	ホテル	
	IRPC	石油・ ガス精製	バンチャック	石油・ガス精製	
	タイオイル		タイ空港公社	運輸	
	PTTEP	総合石油・ ガス	セントラル・パタナー	不動産	
	PTT(タイ石油公社)				
	トゥルー	通信			
BTS	運輸				

(出所) S&P Sustainability Yearbook 2021

な開発リポート(Sustainable Development Report・20

21年度)の国別ランキングでは、タイはASEAN10か国の中で最も高い165か国中43位となっており、タイにおけるSDGsの取り組みは一定の評価を得て

### タイ企業の取り組み

タイでは、ご紹介した通り、「持続可能な開発目標(SDGs)」が国策として位置付けられている

こともあり、大企業を中心に民間企業の関心も高くなっています。

タイの大手石油化学会社「PTT社」は、インドネシアで開発予定であった鉱山事業から撤退を表明するなど、事業のポートフォリオの組み換えに着手しました。また、バイオ燃料製造のバンチャック社は「2025年までにカーボンニュートラルを達成」させる方針を示し、バイオ燃料と化石燃料を含む製品の販売比率を半々とする事を目標にするなど、BCG経済の指針に沿った経営への転換を図っています。

環境・社会・ガバナンス(ESG)の観点を含めて企業を評価するSustainability Yearbookの2021年版(格付大手スタンダード&プアーズ公表)では、タイ企業11社が最高評価のゴールドクラスに選出され、アメリカの9社、日本の6社を上回り高い国際的評価を得ています。(図3)

### 最後に

SDGsが官民を巻き込んだ世界的な潮流となるなか、タイはSDGsの国別達成度で東南アジアトップとして評価されており、今後もタイ政府によるサステナビリティ推進施策の継続的な展開が見込まれます。SDGsへの取り組み強化は投資の呼び水となり、技術・ノウハウに長けた日系企業との協業を模索するタイ企業がこれまで以上に多くなってきたと云われています。

今後、タイに拠点を置く日系企業のみならず、日本の優れた技術や取り組みが広く活用され、ビジネスチャンスとして広がる事が期待されます。

2022年3月2日現在

(バンコク駐在員事務所 水田英男)